

「光の子らしく歩きなさい」

イザヤ書
エペソ人への手紙

第60章1節～3節
第5章1節～14節

説教 岡村 恒牧師

「あなたがたは、以前はやみであったが、今は主にあって光となっている。光の子らしく歩きなさい。」(8節)これは、エペソ人への手紙が、今朝私たちに語りかける励ましの言葉です。

キリストの使徒パウロは、エペソ教会の信仰者ひとりひとりの顔を思い浮かべながら語っています。代々のキリスト教会は、この手紙を今ここで生きる自分自身に向けて語られている言葉として受け止め、励まされてきました。

1章から3章にかけて、私たちの救いについて明確に語られていました。かつては主なる神との関係を失っていた私たちのために、神のひとり子、主イエス・キリストの命を犠牲にしてまで、神は私たちをご自分に結びつけて下さいました。裁かれて滅びるべき私たちを《神の子》と呼んで下さるまでに造り変えて下さいました。4章からは、この《福音(良い知らせ)》を聞いて、信じて生きる者がどのようにこの地上の旅を歩むことができるかについて丁寧に語られています。一読すると、幸せな生活のための知恵が記され、このように生きなさいと命じられているように見えます。しかしここで語られているのは、神との関係が回復されるということがどれほど素晴らしいことかを知った時、人間同士の関係も全く新しく造り変えられてしまうという話です。夫婦の関係、親子の関係、主人と僕の関係も、神に愛されて生きる喜びを知ると、全く新しくされてしまうのです。

今朝の御言葉は、神を知り、神の救いの約束を信じて生きる者の姿を描き出しています。まだ洗礼を受けておられない方も、誰でも、ここに書かれた姿へと造り変えられることができます。信仰を与えられ、洗礼を受けると神の子とされるという約束は、全ての人を招いている約束だからです。

「神にならう者になりなさい」(1節)、「光の子らしく歩きなさい」(8節)という言葉は、私たちに実行不可能な命令を語っているわけではありません。何よりもまず、神からの宣言が響いています。「あなたがたは、神に愛されている子供」(1節)、「あなたがたは、…今は主にあって光となっている」(8節)というのは一方的な宣言です。

聖書を逆さまに読む人は、聖書を一所懸命に読んでも神に出会うことに失敗してしまいます。聖書のどこを読んでも、「あなたはこうしなければならない」とか「あなたはこうしてはならない」という命令や禁止の言葉を聞き取ってし

まいます。そして、おまえはだめだと否定され、繰り返しはっきりして歩むこととなります。しかし聖書に書いてあるのは、《神が》あなたのために何をして下さいったか、ということです。神があなたを愛し、あなたのためにひとり子イエス・キリストを十字架に磔にし、その命を代償としてあなたの罪を赦し、あなたに永遠の命を与えると約束して下さいました。聖書には、あなたが何をしたら良いかではなくて、神があなたのために何をして下さいったのか、ということが書いてあるのです。

エペソ人への手紙の後半には、私たちへの命令や義務が書かれているわけではありません。前半の福音を受けて、繰り返し「だから」という言葉で受け止めながら、私たちを新しい光の中へと導き入れる言葉が記されています。

主イエスの時代、戦争や借金によって奴隷となった人は、しばしば身代金によって解放されて自由になりました。私たちは誰もが生まれながらにして罪人です。命の主である神と無関係に生きようとして、死と滅びしか手にできない者です。その私たちを、神は主イエス・キリストの命という身代金を引き替えにして自由にして下さいました。あなたを愛する、あなたは今では光だ、と宣言して下さいます。

神は聖なるお方です。この《聖》という言葉は《分ける》という意味を持っています。本来、私たちを受け入れることなどあり得ない神が、キリストの血によって私たちを罪と死から切り離して、神の命に結び合わせて下さいました。だから、神は一日一日、あなたを神にふさわしい者、光の子として歩ませて下さるのです。私たちは自分で《神の子らしさ》を実現する必要はありません。あなたは神の子、光の子だと、神が宣言して下さいます。だから、光と無関係な者のように生きることなどできないのだ、私の子でないかのように歩むことなどあり得ないのだ、と御言葉は語りかけています。

神が、あなたは光の子だと宣言して下さいましたので、私たちは神に祈りつつ歩みます。〈神に愛され、光の子として歩み続けることができるように、神よ、私たちをキリストの光で包み込み、お支え下さい。〉神は、神にしかできないことを、私たちにして下さいます。神の子、光の子として私たちを生かして下さいます。

(記 岡村 恒)

